整 線 パ レ ッ ト

３ ５ ３ ０／Ｃ Ａ－Ｍ Ｄ

取 扱 説 明 書

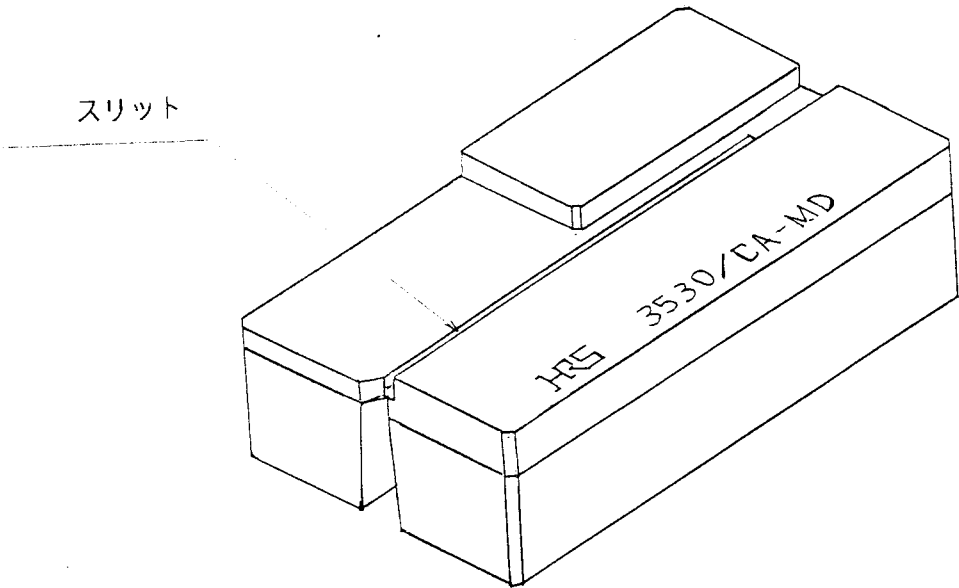
HRS ヒロセ電機株式会社
HIROSE ELECTRIC CO.,LTD.

はじめに

このたびは、整線パレット　３５３０／ＣＡ－ＭＤをお買い求めいただきまして、ありがとうございます。
３５３０／ＣＡ－ＭＤは、３５３０－１６Ｐコネクタの抑え板にケーブルの配線を行う治具です。
正しくお使いいただくため、本書をよくお読み下さい。

目次

第1章　仕様と構成

1－1　各部の名称及び仕様

■仕様

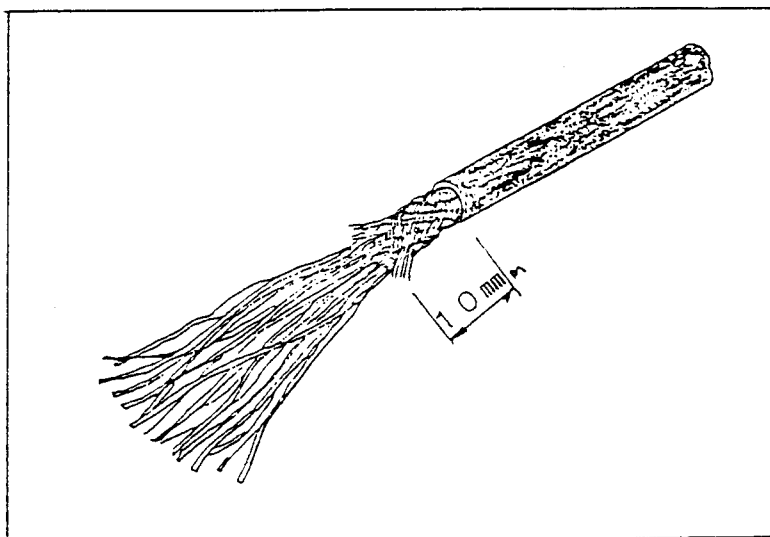
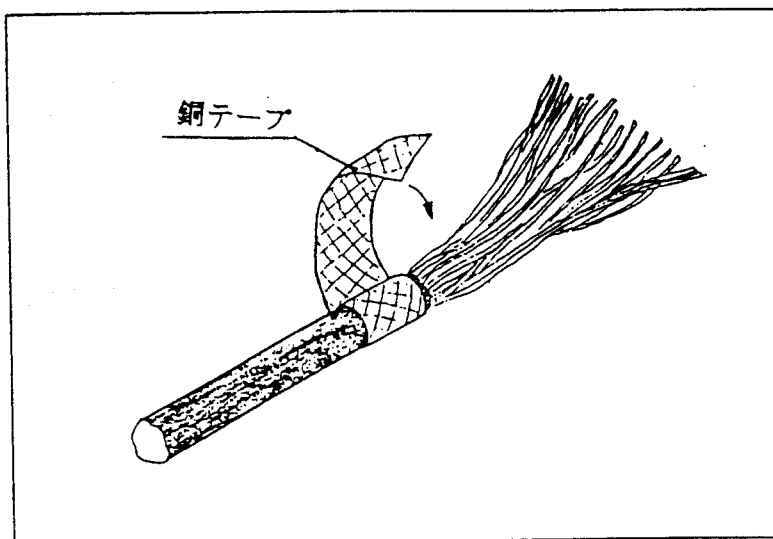
HRS No	CL902－0345－9
適合コネクタ	3530－16P（CL299－0001－2）
外径寸法	30W×60D×14H
重量	500グラム

第２章　整線パレットの操作方法

２－１　端末処理

①ケーブル先端部の外被を剥離します。

②シールドを約１０㎜残し切断します。

【注意】この時、ケーブルに傷を付けないように注意して下さい。ケーブルの傷はショート等の不良の原因になります。

③シールド部を外被側に折り返し、幅約１０㎜のシールド銅テープ（住友３M社製　№2245又は同等品）を、１．５～２巻します。

2－2　作業手順

①端末処理を終えたケーブルを整線パレットの中央にあるスリットに配線パターンに従い通していきます。(Fig-1), (Fig-2)

【注意】ケーブルを通す時は、配線パターンに注意して下さい。ケーブルの順番を間違えると、誤配線の原因になります。
　また、スリットに通してからではケーブルの並べ変えは出来ません。

【注意】ケーブルをスリットに通す際は、ケーブル同志の絡みに注意して下さい。
ケーブルが団子状に絡み合っていると、首下寸法が規格値を超える可能性があります。

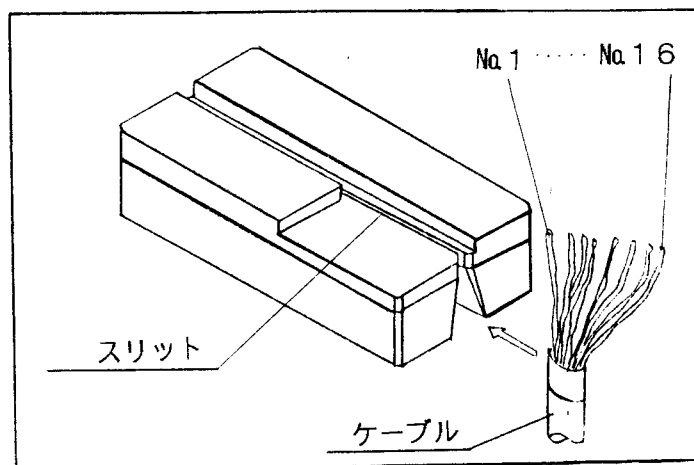
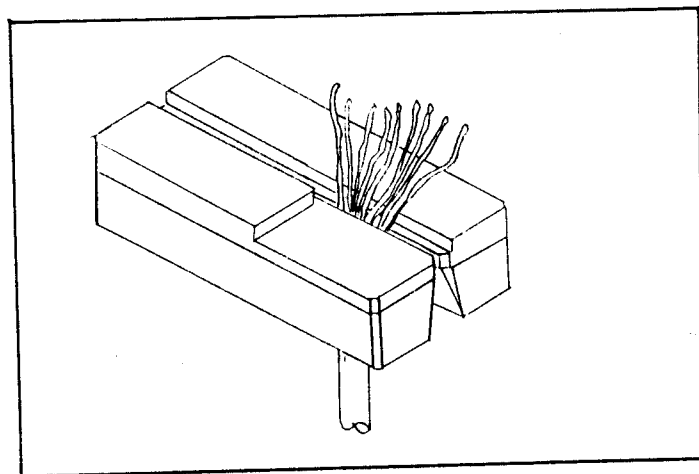



Fig-1

Fig-2

②抑え板（A）をセットします。(Fig-3)

【注意】抑え板（A）と抑え板（B）を間違えると誤配線の原因になりますので注意して下さい。

【注意】この時、抑え板（A）の上下の方向に注意して下さい。

③抑え板（B）を抑え板（A）の反対側からセットします。(Fig-3)

【注意】抑え板（B）と抑え板（A）を間違えると誤配線の原因になりますので注意して下さい。

【注意】この時、抑え板（B）の上下の方向に注意して下さい。

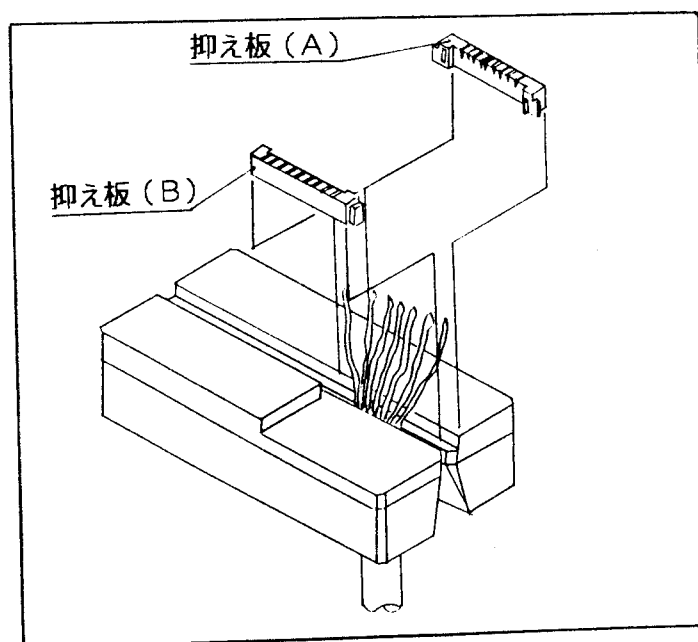



Fig-3

④抑え板（A）及び抑え板（B）とケーブルをそのまま整線パレットのスリットの奥側に移動させます。(Fig-4)

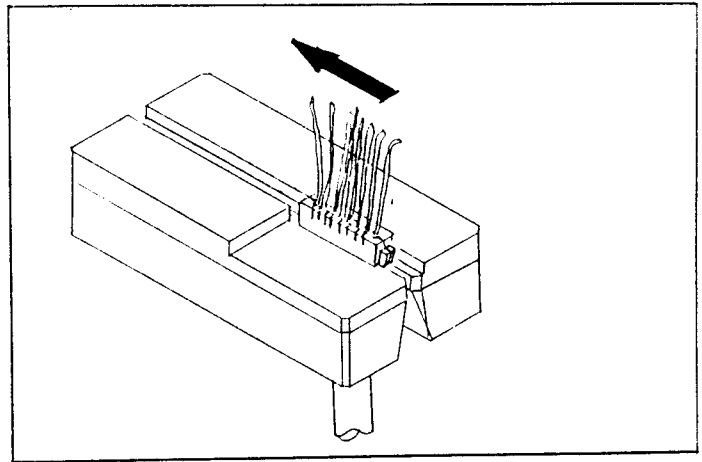



Fig-4

⑤ケーブル外被端面の位置が、整線パレット下面位置に合う様にケーブルを上方向に持ち上げて下さい。(Fig-5)

【注意】この時、位置合わせが確実に行われないと首下寸法が規格値を超える可能性があります。

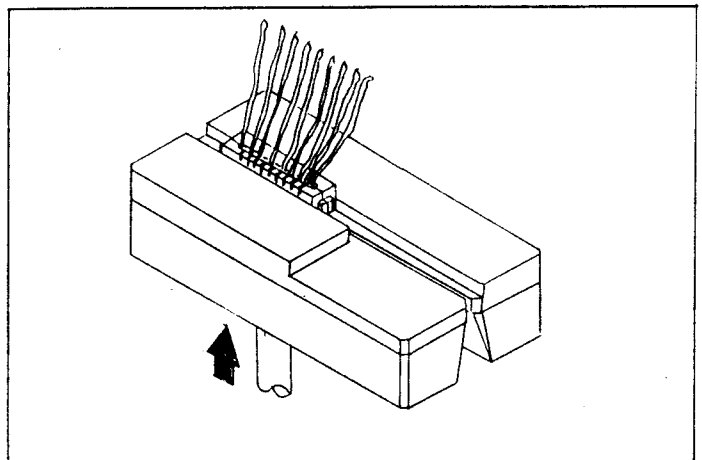
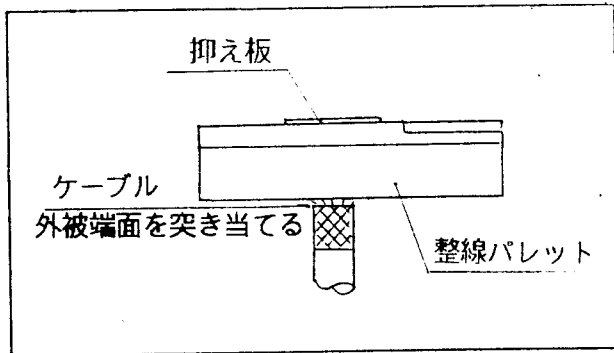



Fig-5

⑥ケーブルを左右交互に振り分け、抑え板の溝に１本ずつ挿入していきます。(Fig-6)

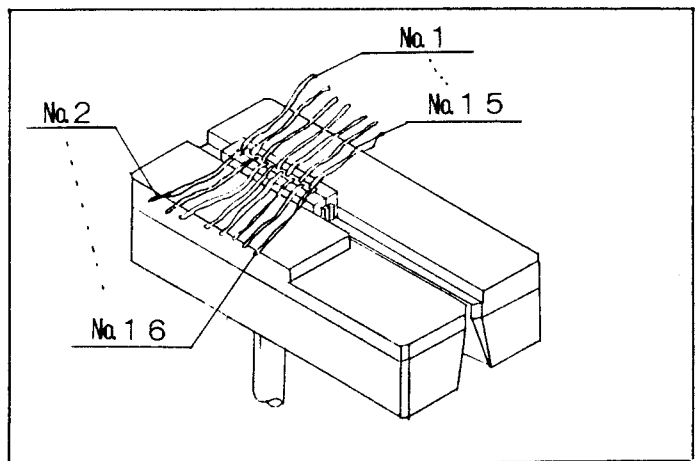
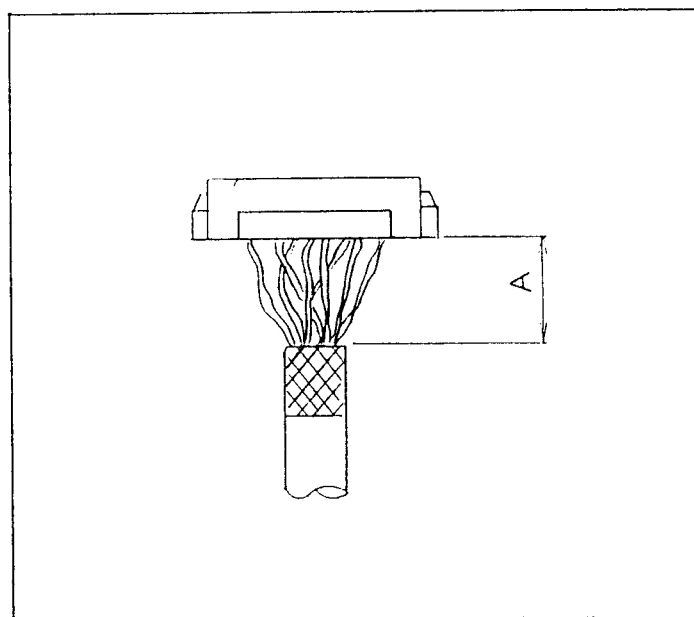
【注意】ケーブルを抑え板に挿入する時は、ケーブルの配線パターンに合った溝になるように注意して下さい。間違ったところに挿入すると誤配線の原因になります。

⑦整線パレットから抑え板およびケーブルを取り出し、次の工程で使うセットパレットに移します。

Fig-6

2－2 出来上がり寸法

■ 各部の寸法

整線後の出来上がり寸法が下記の範囲内に入っている事を確認して下さい。

Ａ＝１２～１３㎜

付録

■３５３０－１６Ｐハーネス工具

３５３０－１６Ｐをハーネスするに当たり本工具の他下記の工具が必要になります。

	製品番号	ＨＲＳ　Ｎｏ．
セットパレット	３５３０－１６／ＳＰ－ＭＰ	９０２－２００９－２
余長切断治具	３５３０／ＣＵ－ＭＰ	９０２－０３４６－１
圧接治具	３５３０／ＩＤ－ＭＰ	９０２－０３４７－４
ケーブル加締治具	３５３０－１６／ＣＡ－ＭＰ	９０２－０３４８－７